

第53号 2017(11頁)

西村洋平(兼任講師)	新しきを知り、古きを温ねる
松田智裕(118期)	留学
富田詠子(124期)	能『鶴』についての覚え書き
アゴラ(グループ名)	プレゼン大会を終えて
照屋七海斗(3年)	
桜井晴紀(3年)	
園部竜之(3年)	
村山正碩(3年)	
谷津亮太(3年)	
研究室から(西村清和)	

第52号 2016(16頁)

藤野寛(教員)	自らの誤りを認める、ということ
瀬戸凜太郎(122期)	「哲学という羅針盤」
第124期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	
第124期卒業論文講評(小手川正二郎)	
研究室から(小手川正二郎)	

第51号 2016(10頁)

栗田義彦(教員)	國學院—私の来し方
樋田麻純(118期)	アルテミジアのユディット
加藤淳(123期)	哲学科を卒業しました
石黒裕樹(118期)	もったいない。
研究室から(木原志乃)	

第50号 2015(14頁)

田窪大介(兼任講師)	ロマンチック?
棚瀬沙和子(119期)	十年、ひとむかし
前田麻美(119期)	変人巣窟
第123期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	
第123期卒業論文講評(金杉武司)	
研究室から(金杉武司)	

第49号 2015(10頁)

瀧本往人(兼任講師)	「フクシマ」と哲学的言説
------------	--------------

丸山諒士(122 期) 人間は云々な動物？
小川滋子(112 期) 哲学科賛歌
木原志乃(教員) 「ゾーオン・ロゴン・エコン」としてのジェイク氏
研究室から(金杉武司)

第48号 2014(18頁)

小手川正二郎(教員) 「他者」論から「他人」論へ
丹澤規予(106 期) 生涯現役「学生」として
野口順子(4 年) なぜ、哲学科にしたのか
第 122 期卒業論文題目一覧
哲学会賞受賞論文要旨
第 122 期卒業論文講評(小池寿子)
研究室から(金杉武司)

第47号 2014(10頁)

西村清和(教員) 『プラスチックの木でなにが悪いのか』
小野和(119 期) ある学生の八年間
小原亜希子(120 期) 自分研究
松本匡平(120 期) ヨーヨーの愉しみ
研究室から(小池寿子)

第46号 2013(16頁)

金杉武司(教員) 脳科学と心の哲学
鈴木仁(85 期) 哲学的な出会い(Part 2)
清水友輔(116 期) A.N.ホワイトヘッド哲学つまみ食い
第 121 期卒業論文題目一覧
哲学会賞受賞論文要旨
第 121 期卒業論文講評(宮元啓一)
研究室から(木原志乃)

第45号 2013(11頁)

千田義光(教員) 四二年間を振り返って
太田貢(93 期) アフガニスタン記
石場創一郎(106 期) ときの旅—石場旅館の歴史ものがたり
樋田麻純(博士課程前期修了) 蘭花のエロティックス
編集あとがき(千田義光)

第44号 2012(20頁)

国分(ガイス)せつ子(81 期)	東と西
渡辺りま(103 期)	ギリシャ財政危機とギリシャ人の主張
中村仁美(118 期)	最近感じたこと
鈴木光男(120 期)	音楽家の雑文
第 120 期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	
第 120 期卒業論文講評(谷川渥)	
研究室から(千田義光)	

第43号 2012(10頁)

阿部道(4 年)	東日本大震災の記憶
内田宣央(105 期)	東日本大震災と國學院大學～学生生活課員の立場から
松田智裕(119 期)	京都に住んで、半年
増田芳宣(119 期)	心の不安から学びへ
研究室から(千田義光)	

第42号 2011(26頁)

小池寿子(教員)	「死の舞踏」の変容—キリスト教救済史観への導入
坂田裕一(84 期)	震災と文化
吉満昭宏(104 期)	名古屋で学んだこと
鶴田圭寿(107 期)	『ピアノの鍵盤数の増加と絵画史』前編
第 119 期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	
第 119 期卒業論文講評(木原志乃)	

第41号 2011(10頁)

原修子(76 期)	冬の朝顔
坂入拓司(89 期)	インナーゲーム
飯島田鶴子(107 期)	ジャマイカ文化紹介
舟木健(115 期)	箱根駅伝と私
研究室から(栗田義彦)	

第40号 2010(16頁)

池上英洋(教員)	図像解釈における“視線”の利用
越前谷悦子(76 期)	「フォン」か、「ポン」か ギリシャ語カナ表記の問題
遠藤利國(81 期)	ある約束
鈴木基弘(115 期)	「精神科」をめぐる雑感

第 118 期卒業論文題目一覧
哲学会賞受賞論文要旨
第 118 期卒業論文講評(谷川渥)
研究室から(谷川渥)

第39号 2010(12頁)

稲熊均(90 期)	【2009 年講演会】恐れ of 文化
瀬戸口宣司(文 76 期・講師)	【佐藤泰志特集】佐藤泰志の詩
鴻野元希(82 期)	【佐藤泰志特集】そのみにて
宮元啓一(教員)	【中村元賞受賞】受賞に思うこと
研究室から(千田義光)	

第38号 2009(15頁)

大濱信宏(87 期)	三十数年にわたる学恩
加藤尚(98 期)	「出会う」「信頼する」「挑戦する」
鈴木正彦(107 期)	高齢者介護の世界で働き始めて六年が経った
佐藤愛(114 期)	蟬のド根性
第 117 期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	
第 117 期卒業論文講評(木原志乃)	
追悼 宮下誠先生(谷川渥)	

第37号 2009(12頁)

秋吉輝雄(非常勤講師)	X'mas あるいはメサイアの季節
箕輪淑子(81 期)	布づくりについて
齋藤貴美子(115 期)	私の原点
長田哲(112 期)	『哲学科とアーティストとしての私』
今野紗織(115 期)	すごいひと
近況報告	
研究室から(宮下誠)	

第36号 2008(18頁)

宮入博之(69 期)	好きな生き方—つれづれ考
栗田義彦(78 期)	閑話休題
山縣博司(86 期)	以心伝心を体感して
加藤之晴(99 期)	誰も寝てはならぬ
圓城寺恭子(111 期)	日常のオムニバス
第 116 期卒業論文題目一覧	

哲学会賞受賞論文要旨

第116期卒業論文講評(宮下誠)

第35号 2008(12頁)

平井房雄(85期)	師走に思う
内田昌宏(93期)	お酒のはなし
泉谷裕(100期)	アメリカについて
川口由起子(105期)	研究者になるまで
石場創一郎(106期)	時を預かる商人
近況報告	
研究室から(谷川渥)	

第34号 2007(20頁)

及川裕二(84期)	哲学科と語学
高野昭夫(96期)	縁あってバツハの街で
斎藤卓也(99期)	学校とは何か？
宮原麻貴(115期)	日々哲学
中西真由美(115期)	大学院への道
第115期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	
第115期卒業論文講評(木原志乃)	

第33号 2007(13頁)

鶴田邦夫(66期)	生活の中での哲学
藤本幸男(82期)	隔世の還暦
佐藤壽晃(84期)	舞台照明という仕事
西山あゆみ(111期)	Behind the Scenes
趙可(113期)	日本—新しい人生が始まる場所
近況報告	

第32号 2006(16頁)

宮元啓一(教員)	寛容の精神についての雑感
鈴木仁(85期)	哲学的な出会い
松井順子(94期)	食欲をめぐる憂鬱
関根智之(100期)	街の本屋
埴岡悠希(113期)	ヴェーベルンを知っていますか？
第114期卒業論文題目一覧	

第31号 2006(16頁)

神川正彦(教員)	クォーターリサーチレポートの刊行とその後
外岡千代子(88 期)	「校正」あれこれ
小坂橋淳(99 期)	遠く離れて—二年越しの宿題—
清田茂(101 期)	いい仕事をするために
深井龍弥(111 期)	たまねぎの残骸
近況報告	
ホームページのご案内	

第30号 2005(16頁)

木原志乃(教員)	「ソクラテス以前」研究の方法論
稲熊均(90 期)	「うそ」に潜んだ思い出
久高将晃(104 期)	アーヘン留学記
興津香織(108 期)	インド哲学と江戸時代の微妙な関係
第 113 期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	
第 113 期卒業論文講評(千田義光)	
101 期会員からのお知らせ(齋藤滋)	

第29号 2005(12頁)

東千尋(教員)	心に浮かぶよしなしごと、或いはあの頃の哲学科のこと
清水尊(81 期)	「生」でも「死」でもない「脳死」というもの
金鈴兒(112 期)	私からみた韓国人と日本人の違い
江波久子(3 年)	前略 耐子様
近況報告	
研究室から(谷川渥)	
退任の弁(東千尋)	

第28号 2004(16頁)

東千尋(教員)	徒然なるままに・・・
磯崎満(82 期)	「哲学科で学んだこと」
斉藤潤子(85 期)	『雪駄とスニーカー』
齋藤滋(101 期)	仏教学の扉
第 112 期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	

第 112 期卒業論文講評(谷川渥)

第27号 2004(12頁)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 青山賢治(80 期) | 書籍の価格について |
| 入江英弥(91 期) | 師 |
| 山本昭弘(98 期) | 『写真とコミュニケーションと私』 |
| 関愛善(111 期) | 日本の美意識を巡って |
| 近況報告 | |
| 研究室から(宮下誠・宮元啓一・栗田義彦) | |

第26号 2003(20頁)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 清水尊(81 期) | 仕事を通じて感じていることー日本の医療行政 |
| 須藤典子(91 期) | 時計はどうして12なの |
| 諏訪哲史(100 期) | 「若きスノッブたち」 |
| 宮尾一憲(111 期) | 逃げ道のない哲学への道へ |
| 第 111 期卒業論文題目一覧 | |
| 哲学会賞受賞論文要旨 | |
| 第 111 期卒業論文講評(東千尋) | |

第25号 2003(12頁)

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| 鎗田清太郎(57 期) | 丸山薫賞受賞の記 |
| 来田武(78 期) | 第4回世界マスターズ柔道選手権大会(73 kg)に優勝して |
| 宇野彰人(85 期) | 「秋葉原電気街」で学ぶ |
| 島山みつ(93 期) | 「仕事を始めて」 |
| 近況報告 | |
| 研究室から(栗田義彦) | |

第24号 2002(16頁)

- | | |
|--------------------|----------------|
| 中野好之(教員) | 一昔前の大学キャンパス |
| 国分せつ子(81 期) | ヨーロッパの無力・日本の無力 |
| 森隆暁(81 期) | 死の静謐 |
| 上野里美(96 期) | 壊れたスクーター |
| 第 110 期卒業論文題目一覧 | |
| 哲学会賞受賞論文要旨 | |
| 第 110 期卒業論文講評(東千尋) | |

第23号 2002(12頁)

鎗田清太郎(57期)
遠藤利国(81期)
荒井剛志(94期)
久高將晃(104期)
近況報告

哲学科の思い出
『極東国際軍事裁判速記録』を読んで
中年クライマーの冬の日
私の哲学の原点

第22号 2001(16頁)

矢島杜夫(79期)
須川純子(84期)
福山貴之(94期)
奥野要助(103期)

「中流」は崩壊したか？
あの中庭のベンチから
「地図で登る山」
利便性の代償とは・・・

第109期卒業論文題目一覧

哲学会賞受賞論文要旨

第109期卒業論文講評(栗田義彦)

第21号 2001(16頁)

湯本良和(76期)
西沢稔(85期)
鈴木延人(95期)
神田啓子(97期)
大野真紀子(101期)
近況報告

不易—三月二十日のこと『昭和四十三年三月二十日』
教師生活の報告
『二十一世紀の教育に向けて』
最近の事とか、仕事のこととか
「旅のすすめ」

第20号 2000(22頁)

宮下誠(教員)
土岐泰広(93期)
須佐俊吾(99期)
鶴巻祐司(102期)
徐清(3年)

分析・解体・復讐—クレンペラー—晩年のテンポを巡って—
東京は、遠くに居りて想うもの
ギリシヤは猫が多かった
文章が溢れている。関心はある。さて格闘しているか。
春

第108期卒業論文題目一覧

哲学会賞受賞論文要旨

第108期卒業論文講評(谷川渥)

第19号 2000(12頁)

神川正彦(教員)
矢島杜夫(79期)
庭山吟子(79期)
我妻清治(93期)

國學院において四分の一世紀の時をすごした終わりに
「過信」について
スペイン駆けある記
近頃の遊び場

近況報告

第18号 1999(20頁)

今井淳(教員)	「美しい仮象」の復権から「哲学」へ
中野幸次(59期)	あるべきはずの自己と現実
林遼智(66期)	哲学の効用
岩波薫(93期)	－水俣展再考－
第107期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	
第107期卒業論文講評(千田義光)	
東千尋(教員)	今井先生のこと、中野先生のこと

第17号 1999(12頁)

矢島杜夫(79期)	「最近の教育に想う」
大瀧信子(3年)	谷戸に暮らす
菱京子(105期)	イタリア人の芸術観
宮元啓一(教員)	わが国の仏教学研究雑感
近況報告	

第16号 1998(20頁)

平井武夫(59期)	昭和二十年前半の哲学科
粟田義彦(教員)	ふたつの人間生命観と人間の本質
松尾順子(76期)	儀式は狭い和ではなくインターナショナルである
小本利明(104期)	『私の弁神論』
黄鎔淳(4年)	心地よい積極的な時間
第106期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	
第106期卒業論文講評(谷川渥)	

第15号 1997(16頁)

松永一彌(67期)	「古い散々」
棚沢幹夫(81期)	「変わるということと変えるということ」
後藤真一(94期)	風の憧憬
神谷友紀子(101期)	哲学者との奇妙な生活
第105期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	

第 105 期卒業論文講評(谷川渥)

第14号 1996(16頁)

工藤時男(68 期)	教育雑感
松下雅由(87 期)	一会一生
牧野真理(97 期)	ダムを見に行く日もあります
坂口正治(102 期)	キャンパスの青い空
第 104 期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	
第 104 期卒業論文講評(宮元啓一)	

第13号 1995(16頁)

本間充(72 期)	札幌のひと
上田浩史(89 期)	「近頃 思うこと」
牧田恵美(97 期)	『グランブルーワールド』
崔紅国(4 年)	私と日本語
第 103 期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	
第 103 期卒業論文講評(神川正彦)	

第12号 1994(20頁)

加藤求二(67 期)	私の有と時
遠藤利国(81 期)	時はめぐる
横山桜子(87 期)	手で考える 1) 印判の器
大川原冬樹(90 期)	94年 夏 序章
キムヒョントク(4 年)	ありがたい知人達
第 102 期卒業論文題目一覧	
哲学会賞受賞論文要旨	
第 102 期卒業論文講評(千田義光)	

第11号 1994(16頁)

大澤新一(59 期)	棟点描
宮入博之(69 期)	生きるということは
藤本幸男(83 期)	システムを飛び出す
有吉みゆき(92 期)	帰らぬ日・雑感
杉淵武徳(95 期)	表現としての「傑」
村上麻紀(101 期)	ダイヤリーとギリシャ悲劇

第10号 1993(16頁)

桐山金吾(60期)

「学際的」について

鎌田東二(83期)

デルフォイと哲学

小山内るみ(86期)

私事戯言

宮崎俊夫(96期)

味噌汁の湯気越しに日本が見える

度会恭子(98期)

マタニティライフと私

第101期卒業論文題目一覧

哲学会賞受賞論文要旨

第101期卒業論文講評(千田義光)

第9号 1993(16頁)

谷口紀昭(66期)

外れ者の「今昔の思い」

内山貴(67期)

身辺雑記

太田征紀(89期)

「精神病患者」から「精神障害者」への序章

丹波尚子(92期)

「母の死に思う」

金子昭夫(100期)

「誰もが知っていること」

土淵真佐子(85期)

詩三篇

谷川渥(教員)

人と作品

哲学会規約

編集後記(千田)

第8号 1992(16頁)

豊田好實(60期)

山田統先生と序文

小沢千代子(69期)

B. ラッセル周辺

須川努(84期)

歯との格闘

大場豊聡(93期)

NYのインベストメントバンクの支店から

第100期卒業論文題目一覧

哲学会賞受賞論文要旨

第100期卒業論文講評(神川雅彦)

編集後記(佐藤)

第7号 1991(12頁)

鶴田邦夫(66期)

会報刊行への提言

栗田義彦(78期)

推理小説と総合判断そして論文

戸田善育(87期)

世界動向と日本宗教

須藤典子(91期)

現象学的子育て論(その二)

村松充(99 期)
哲学会規約
編集後記(東)

沖繩の夏

第6号 1991(20頁)

末富明子(62 期)
大浜信宏(87 期)
宇野彰人(85 期)
境寛子(92 期)
望月昭弘(94 期)
岡山恵子(97 期)
第 99 期卒業論文題目一覧
哲学会賞受賞論文要旨
第 99 期卒業論文講評(東千尋)
編集後記(横木)

鳥と
ゴミ・中退・校門圧死(II)
忘れられない人々
ナイロビ子育て体験記
中国の列車において
演劇記者になりました

第5号 1990(16頁)

高坂均(86 期)
大浜信宏(87 期)
酒井尚子(92 期)
千田義光(教員)
遠藤利国(81 期)
哲学会賞規程
編集後記(土橋)

インタビュー(横木氏担当)
ゴミ・中退・校門圧死
二十九年めの私
東欧を旅して
『博物館のレトリック』書評

第4号 1990(16頁)

大友務(77 期)
横木徳久(89 期)
須藤典子(91 期)
内澤淳子(97 期)
浅野耕一郎(97 期)
宮元啓一(教員)
第 98 期卒業論文題目一覧

待ってください
近況
現象学の子育て論
無題
内定がなんだってんだ
卒業論文に思う

第3号 1989(16頁)

井上智行(58 期)
国分せつ子(81 期)
浅沼周(82 期)

窮通理
ドイツからの手紙
『昭和六十三年』

鈴木正樹(91期)
神川正彦(教員)
第97期卒業論文題目一覧

「哲学って何？」
時に百年前を想起する

第2号 1988 (16頁)

中野幸次(59期)	「制作の哲学」
小沢千代子(69期)	「普通」の中に
池田達彦(76期)	中世への関心
沼田一博(83期)	豊かさ—過剰と適正—
土淵真佐子(85期)	気がついたら神職に
鈴木伸一(89期)	当世俳句事情
後藤雅彦(90期)	社会適応について
中野好之(教員)	大学昨今

第1号 1987

鎗田清太郎(57期)	「氷河時代」とは何か—言葉の「意味」の動態について
吉永吉治(59期)	哲学科に学んで
林遼智(66期)	哲学その後
藤井新右(74期)	声なき声
越前谷悦子(76期)	哲学と私
高野正史(81期)	哲学会を喜ぶ
金城倫明(88期)	”七年も過ぎたのか”
高梨晃弘(93期)	北の大地の学校にて
東千尋(67期)	ギリシャで暮して—アゴラのこと—